

2014年7月政情（内政・外交）

1. 内政

（1）バレーラ新大統領就任式

1日、ロンメル・フェルナンデス競技場にてファン・カルロス・バレーラ新大統領の就任式が行われ、同政権が正式に発足した。「バ」新大統領は就任スピーチの中で、民主主義を回復させ、国民の奉仕者として公平性と透明性を持った政治を行う事を約束した。また同日午後には選挙キャンペーン時より公約として掲げていた基礎食料品価格凍結のための政令に署名を行い、最長6ヶ月の期限付で基礎食料品22品目の小売価格に上限を設定した。

（2）新国会の召集

1日、新国会が召集された。同国会には信任状を受け取った57名の議員が出席し、投票により、新国会議長としてパナメニスタ党アドルフォ・バルデラマ議員、第一副議長として PRD 党ベニシオ・ロビンソン議員、第二副議長として PRD 党アルフレド・ペレス議員が選出された。議長については満場一致、副議長については賛成多数で選出された。

（3）ナバーロ PRD 党書記長の辞任

3日、「ナ」PRD 党書記長は自身のツイッター上にて、PRD 党書記長を辞任する意思を表明した。またその直後、同党に対し、「5月4日大統領選挙における敗北以降、書記長としての辞任を考えていたが、党執行部より次期人選や国会議員への異議申立てへの対応、パナメニスタ党との閣外協力のための合意交渉の関係から、2ヶ月間辞任を待つてほしいと言われていた。2ヶ月が経過し上記の問題が解決された今、正式に辞表を提出する。」との文書を提出した。

（4）モリレナ党と CD 党の連立解消

3日、ゴンサレス・モリレナ党党首は、2009年に成立した同党と CD 党の連立の解消を発表した。「ゴ」党首は、今後同党は CD 党や PRD 党等いかなる他政党とも連立を組まないと述べ、建設的かつ独立した野党として、バレーラ政権が良い事を行えば支持を、悪い事を行えば批判する姿勢である事を強調した。なお、モリレナ党の新国会における議席数は2議席となっている。

（5）国会における常設委員会の発足完了

24日、国会における予算委員会及び貿易経済委員会が組織され、全15委員会の発足が完了した。信任委員会、経済財務委員会、インフラ及び運河担当委員会、教育・文化・スポーツ委員会、対外関係委員会、農牧委員会の6の委員会の委員長がパナメニスタ党より選出され、予算委員会、内務委員会、通商委員会、通信及び輸送委員会、先住民担当委員会、環境委員会、女性・青少年・家庭委員会、労働・保健・社会開発委員会、地方担当委員会の9の委員会の委員長が PRD 党より選出された。

（6）領事制度透明化委員会の設置

28日、サイン・マロ副大統領兼外務大臣は、便宜置籍船の登録を含む領事業務の仕組みを改革することを目的として、外務大臣、外務次官、経済財務次官、海運庁長官、海運庁副長官をメンバーとする領事制度透明化委員会を設置した。同委員会の第一回会合においては、いくつかの公館の領事手数料の見直しや、領事及び領事館員のプロフェッショナル化につき議論が行われた。また同会合において、在京大の領事としてリッテル・ディアス在京大参事官が任命されることが決定した。

2. 外交

(1) ベネズエラとの外交関係回復

1日、バレーラ新大統領の就任式に出席したアレサ・ベネズエラ副大統領は、就任式会場にて記者団を前にパナマとの外交関係を再開した旨発表した。「ア」副大統領は、コロン・フリーゾーンにおけるベネズエラ企業の債務に関しては、ベネズエラ政府により支払いが行われると述べた。また、11日付パナマ外務省プレスリリースをもって、両国の外交関係再開が正式に発表された。

(2) マルティネリ前大統領の中米議会議員就任

1日、マルティネリ前大統領はグアテマラの中米議会（PARLAGEN）本部において、中米議会議員として就任するべく宣誓を行った。「マ」前大統領は、中米議会議員の持つ不逮捕特権の為に議員になったのではないかという問いに関しては、これを否定した。

(3) サントス・コロンビア大統領のパナマ訪問

バレーラ大統領はパナマを訪問したサントス・コロンビア大統領と会談し、パナマ・コロンビア間の送電線プロジェクト、観光促進、治安、貿易・投資、ウルタード元コロンビア大統領府治安局長の身柄引き渡し問題等につき、意見交換を行った。